■新UDCK

初代施設の閉鎖に伴い、TX高架のちょうど反対側、柏の葉キャンパス駅東口前に、二代目となるUDCKが平成22年9月8日にオープンした。敷地面積約1,000平米、建築面積約300平米（屋内面積約230平米）で、オープンデッキ、ギャラリー、オフィスという構成は、初代の施設とほぼ同様の規模・内容である。これは、従来の初代の施設が、多くの主体をつなぎ、活動を生み出す拠点として十分に機能し、街になじんできたことを受けたものである。一方で、新施設への移転に伴い、模型の更新やビデオによる取り組み紹介など、情報発信機能のさらなる向上を図っている。

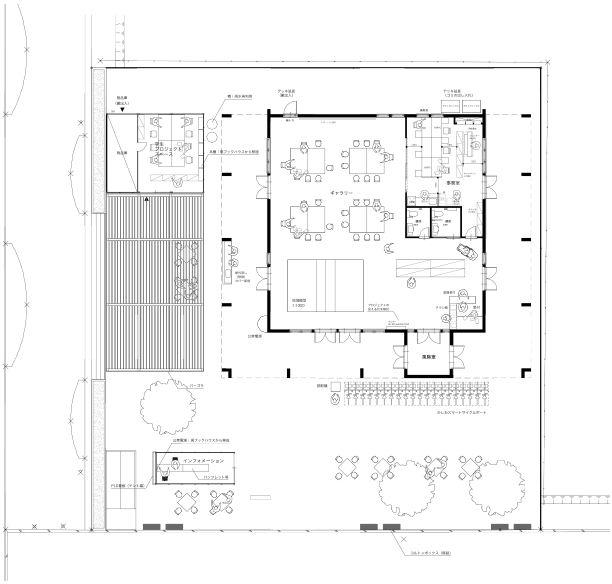


図2-34　新UDCKの平面図

また、当施設は、ツーバイフォー工法による大空間建築の社会実験施設として三井ホームにより建設されたもので、木造とすることにより、低コスト化と環境負荷の軽減が図られている。さらに、オフィス部では、岡村製作所の協力により最新型の照明システム「次・オフィスライティングシステム」を導入したり、壁材としてケミレス素材を用いるなど、施設自体が新たな技術を取り入れた社会実験施設となっていることが特徴である。

写真2-16　新UDCK外観

写真2-17　新UDCK内観

■理念と役割[19]

UDCKのホームページによると、理念と役割は以下の様に紹介されている。ここでは市民にとってどのような役割を持った施設なのかということについては紹介されていない。HPでは「市民と行政、企業、大学などが連携してまちづくりを進めていくための『場所』『環境』をつくる」とあるが、具体的な連携の方法ついては試行錯誤の段階であると言える。しかし、2010年度のUDCKパンフレットによると、その役割の記述は変化しており、この記述から、UDCKの４年間の役割の変化を読み取ることができる。

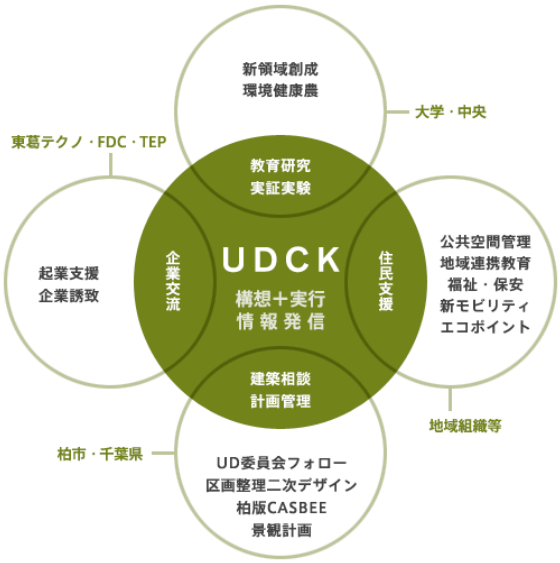
UDCK　HPにおける役割

「UDCKの基本的な理念は「公民学の連携」です。言い換えれば、地域をベースに、市民と行政、企業、大学などが連携してまちづくりを進めていくための「場所」「環境」をつくるということであり、それがUDCKの設立に込められた大きな目的です。そのため、UDCKの最も重要な役割は、会議等の場を通じて、既定の業務や研究をつなぐ中間的機能を果たすことにある。いわば、まちづくりに係わる多様な主体の連携のプラットフォームとしての役割です。

一方で、UDCKは単なる調整の場ではありません。自らが専門性を持ち、構想、計画、推進するシンクタンクとして、柏の葉国際キャンパスタウン構想の推進・実行を担うことも、大きな使命です。

さらに、もうひとつの役割として、様々な印刷媒体や報道発表、フォーラム等を通じて、柏の葉のまちづくりを広く情報発信していくことがあげられます。

すなわち、（1）プラットフォーム、（2）シンクタンク、（3）情報発信という3つがUDCKの大きな役割といえます。」



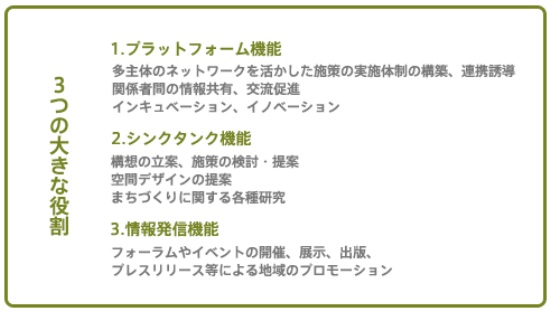


図2-35　HPによるUDCKの役割

2010年度　UDCKパンフレットにおける役割

1　**まちづくりの推進**：構想の立案・推進、会議の企画・運営を通じた調整

2　**研究・提案**：大学の知を活かしたまちづくりの研究・提案

3　**実証実験・事業創出**：先進的な取り組みの実証実験と新規事業創出

4　**空間計画**：専門性を活かした先進的なアーバンデザインの実施

5　**交流・学習**：大学の知の発信、地域連携の推進、人材育成

19 UDCK HP (http://www.udck.jp/about/000247.html)

2.3.2　4年間の組織形態

UDCKの組織構成は表2-8のようにセンター長、副センター長、ディレクター、メンバー、スタッフの個人と、その基盤であり、サポートしている構成団体、協力団体で構成されている。

設立の経緯については、砂川（2009）[20]の研究にその背景が記載されている。（表2-7）設立の考案者は東京大学の北沢猛であるが、設立の背景には、関係団体それぞれに必要としていたものが重なり合い、実現まで至った。同時期に動き出したそれぞれの構想がUDCKというひとつのまちづくりの拠点に込められていることがわかる。

表2-7　UDCK設立期の各団体の背景

設立時の中心主体	背景
千葉県	・第五次首都圏基本計画（1999年）によって、柏の葉地域は流山市とJR柏駅を中心とした柏都心地区と合わせて業務核都市像としている。 ・2001年の報告書では、アーバンデザイン推進によってキャンパス駅前の整備を行うことが記載。 ・2002年の報告書では、大学と地域の企業や研究所が連携したものづくりネットワークを打ち出す。 ・2003年の報告書では、中小企業総合支援施設として東葛テクノプラザを東大隣接地に設置し、地域振興整備公団が翌年開いた東大柏ベンチャープラザと一緒に産業振興に力を注ぐ。 ・北沢猛を千葉県の参与に迎える。
柏市	・1996年から「緑園都市構想」を打ち出し、柏の葉キャンパス駅周辺は新都市センター地区として文化の拠点となるような都市イメージを描く。 ・2006年には「柏市第四次総合計画中期基本計画』において、異文化交流から新しい文化創造を打ち出し、国際キャンパス都市として将来像をイメージ。
東京大学	・1990年代より、本郷、駒場に続き第三の拠点として柏の葉に参入。 ・2006年より新領域創成科学研究科環境学専攻が完全移転
千葉大学	・2003年4月環境健康都市園芸フィールド科学教育センター（以下センター）開所 ・2006年からシックハウス症候群対策がされている実証実験「ケミレスタウンプロジェクト」開始 ・2003年時のセンター長：古在豊樹、センターの運営委員会に招集されたメンバーには宮脇勝、栗生明
三井不動産	・柏の葉キャンパス駅のある土地の所有者、開発事業者 ・「CITY IN CAMPUS」「LOHAS」をコンセプトに事業 ・地域イメージの向上のために、連携型のまちづくりを積極的に始動

（作成：著者、出典：砂川（2009））

20 砂川亜利沙『まちづくりセンターの活動特性と拠点となる空間に対する研究』学位論文（2008）

構成団体としては、自治体（柏市）、大学（東京大学・千葉大学）、住民組織（田中地域ふるさと協議会・柏商工会議所）、大手不動産企業（三井不動産）、TXの運営会社である鉄道会社（首都圏新都市鉄道）の７団体で構成されており、前6団体は設立当初から、首都圏新都市鉄道は2007年4月から加入した。

また協力団体は、人材派遣や予算の調整役として柏市都市振興公社、設立時は構成団体だったが、その後協力団体へと移行した千葉県、イベントの企画・運営を担当するスパイラル／ワコールジャパン㈱、ジャパンライフシステムズ、調査・研究活動におけるサポートを担う都市環境研究所、UG都市建築、広報担当のプラップジャパン、市民活動のコーディネートを担当するNPO支援センターちばが加入している。（表2-8）

表2-8　UDCKの関係者、関係団体組織表

	2006-2007	2008	2009	2010
センター長	・北沢猛（東京大学）			・大和裕幸（東京大学）
副センター長 （◎は常駐）	・栗生明（千葉大学） ・石黒博（柏市） ◎前田英寿（東京大学）	・栗生明（千葉大学） ・石黒博（柏市） ◎前田英寿（東京大学）	・栗生明（千葉大学） ・石黒博（柏市） ◎前田英寿（東京大学）	・上野武（千葉大学） ・猿渡久人（柏市） ・清家剛（東京大学） ◎三牧浩也（東京大学）
ディレクター （◎常駐、○半常駐）	◎丹羽由佳理（柏市都市振興公社／東京大学） ◎田口博之（柏市都市振興公社） ・日高仁（東京大学） ・鈴木弘樹（千葉大学）	◎丹羽由佳理（柏市都市振興公社／東京大学） ◎田口博之（柏市都市振興公社） ○小林正史（プラップジャパン） ○宮奈由貴子（NPO支援センターちば） ・日高仁（東京大学） ・鈴木弘樹（千葉大学）		◎砂川亜里沙（柏市都市振興公社） ◎田口博之（柏市都市振興公社） ○小林正史（プラップジャパン） ○宮奈由貴子（NPO支援センターちば） ・日高仁（東京大学） ・鈴木弘樹（千葉大学）
メンバー	・松井健（三井不動産） ・相原孝一（首都圏新都市鉄道）	—	—	—
スタッフ	・富川由美子 ・河西啓 ・神之門はな子	—	—	—
構成団体	東京大学、千葉大学、柏市、三井不動産、柏商工会議所、田中地域ふるさと協議会、首都圏新都市鉄道			
協力団体	柏市都市振興公社 千葉県 スパイラル 都市環境研究所 UG都市建築	柏市都市振興公社　千葉県　スパイラル　都市環境研究所 UG都市建築　プラップジャパン ジャパンライフシステムズ　NPO支援センターちば		

（作成：著者、参考：UDCK年間報告2007 2008 2009）

2.3.3　4年間の活動（表2-9、2-10、2-11、別紙2参照）

■柏の葉キャンパスタウン構想

国際キャンパスタウン構想は柏の葉地域の将来像を描くものとして策定されているものであり、前田（2010[21]によって以下のように整理されている。

2006年度から検討が始まった。「キャンパスタウン」には地域と大学を空間的にも社会的にも融合させる意図を込めている。市と県にとっては既往の緑園都市構想と柏・流山地域国際学術研究都市づくり事業を先進地域で具体化する意味がある。「国際」は東京大学が柏キャンパスを「国際キャンパス」と位置づけたことに由来する。検討には委員会を設置し、委員長と副委員長には東京大学、千葉大学の学部長級、委員長には両大学の教授、県から総合企画部と県土整備部の幹部、市から企画部長と都市計画部長が就いた。委員の内、東京大学教授はUDCKセンター長、千葉大学教授と市企画部長は同副センター長である。各委員の部下、たとえば大学講師や庁内課長係長級も参加した。それらの多くがUDCKの運営機構を兼務した。UDCKの協力団体からは都市計画を担当する会社が作業協力した。このように国際キャンパスタウン構想とUDCKは別々に起動したものの、主要な人材は両方に同時に携わった。費用は県、市、東京大学、千葉大学が同額ずつ分担した。

国際キャンパスタウン構想は2007年度まで2カ年の調査研究を経て、2008年3月千葉県、柏市、東京大学、千葉大学の共同で策定、5月に公表した。内容は環境、産業・文化、学術・教育、移動交通、ライフスタイル、エリアマネジメント、空間デザイン、研究開発の8部門に渡る包括的な将来構想となった。各部門とも具体的な施策の提案を含む。特に環境についてはCO2削減率や緑化率の数値目標を示した。構想が広範囲に及んだのは、大学が主導し、行政から企画系と建設系が参加したためである。それがそのままUDCKの活動範囲広がりになっていった。

2008年の策定後は実行段階に移行し、「フォローアップ調査」として、キャンパスタウン構想で位置づけられた目標と指針に従って、関係団体が各種の施策や事業を展開している。このうち、現在までに報告されている内容については以下の表に示す。

さらにこの構想に則して、様々な活動が展開されている。活動内容は、空間計画、研究、実証実験、育成プロジェクト、プロモーション、情報発信などである。これらの多くの活動が発生するに従い、協力会社の増加や体制の調整が行われてきた。活動の拡大に伴い、人の関わりも多くなり、市民に対しても多くの活動が開かれるようになった。

21

表2-9　2008年度柏の葉国際キャンパスタウン構想フォローアップ

部会	内容
①田園都市部会	農あるまちづくりの仕組みと景観形成の検討、柏たなか駅周辺地区を事例にUR都市機構と連携。
②環境建築部会	戸建て住宅等小規模建築における環境建築の研究。市内建築家も参加し、「柏版CASBEE」の試用。
③地域教育部会	地域に開かれた学習教育環境の推進。UDCKを中心としたこれまでの試みを整理するとともに、区画整理区域内の新設小学校のあり方を探った。
④自転車部会	環境型交通体系に向けて、自転車利用の研究を行った。秋のモビリティフォーラムではセグウェイやコミュニティバイクなど次世代交通を試用し、春のモビリティラボに向けてさらに共同自転車やサイクルツアーを企画。
⑤地域大学連携部会	UDCKの将来像を題材に地域まちづくり組織のあり方を議論した。柏市、東京大学、千葉大学、三井不動産でUDCK将来計画委員会を組織するとともに、東京大学GCOEで国内外事例を調査。
⑥空間デザイン部会１	駅から小学校への緑道の道と沿道建築のデザインを検討した。
⑦空間デザイン部会２	駅北側住区について、調整池を中心とした環境モデル街区などの検討

（出典：UDCK　年間報告2008）

表2-10　2009年度柏の葉国際キャンパスタウン構想フォローアップ

部会	内容
①環境都市部会	柏の葉コミュニティグリッドでは、柏の葉地域における社会運営のシステムとこれに対応する持続可能な空間計画を研究、成果をフォーラムで発信。
②田園都市部会	柏北部地区において、都市と農との共生を図る取り組みとして、都市型農業の実践支援、まちづくり拠点施設の整備、農ある景観形成の試み
③地域教育部会	小学校の新設に伴い、アーバンデザインと地域連携に関して意見交換し、地域の活動・資源を活用した小学校づくりに携わる。
④ITS部会	ITSによる移動交通の実験を行ない、効果を検証、ITS利用の先進事例となることを目指す「柏ITS推進協議会」を設立。
⑤自転車部会	モビリティフォーラムや新しいモビリティのツアー、レンタサイクルの実証実験を行ない、「自転車利用促進計画」を提案。
⑥地域大学連携部会	2010年度から新体制化を仮定し、UDCKの成果を評価検証し、将来形を展望した。また、他組織との比較研究や技術交流を目的に「アーバンデザインセンター会議」を開催
⑦空間デザイン部会	緑園の道の基本設計と駅北側街区に関して「緑園のまちづくり計画」の検討を行った。
⑧地域ICT部会	位置情報基盤を利活用したユビキタスモビリティシステムの構築と実証実験を行った
⑨エリアマネジメント部会	大学と地域が連携した持続可能なまちづくりとして「カレッジリンクプログラム」や市民による都市緑化、まちづくりへの能動的な関わりとして「かしはなプロジェクト」による花と緑の効用実証実験、予防医学とエリアマネジメント、柏の葉キャンパス駅前エリアマネジメント協議会の検討、公衆電源の実証実験などの実施。
⑩PLS展開部会	かしわ北部東地区の「農あるまちづくり」の一環で、農園運営事務局や農産物販売、観光・体験農園等の窓口、休憩所・交流の場として環境コンビニステーションを開設。

（出典：UDCK　年間報告2009）

この4年間におけるUDCKの活動を以下に示す。また具体的なものとして、表2-11、別紙2で各活動の活動時期を明記する。

■　空間計画

空間計画としては、「先行街区のデザインマネジメント」、「区画整理の二次デザイン」、「大学院の都市デザイン演習」、小さな公共空間の実験、「柏版CASBEE」、「柏たなか駅農あるまちづくり」などの取り組みが行われた。特に創設期には、駅前街区の空間計画の検討や、千葉大学のキャンパス計画の動きが活発であった。

■　研究

研究活動としては、世界や日本全国各地のアーバンデザインについて調査・研究を行う研究「アーバンデザインセンター会議」や柏の葉地域について調べる「柏の葉まちづくり研究会」「柏の葉コミュニティグリッド研究」では地域の都市構造や地域組織の把握を行ない、大学院生を対象とし、設立時から毎年行っている「都市デザイン演習」では新開発地を対象とした課題が出題されている。その他「ITS実証実験モデル都市」などの研究活動も行っている。

■　実証実験

柏の葉では大学や企業の研究の成果を社会実験として実験している。これまでには千葉大学がシックハウス症候群のための環境医学診療科を開設するとともに、化学物質をできるだけ低減した建材や家具などを使用した実証実験施設群の建設「ケミレスタウンプロジェクト」や、市民が地域のエコ・デザインについて学びながら地域を回るツアー「柏の葉エコ・デザインツアー」、学生の設計演習の提案をもとに実現した小さな公共空間PLS（Public Life Space）の建設、公衆電源装置の設置など様々な取り組みが行われている。

■　育成プロジェクト

柏の葉の担い手を育成する活動としていくつかの育成活動を行っている。学習系のプログラムとしては、UDCKで開校している市民・行政職員・学生を対象とした「まちづくりスク―ル」、千葉大学が市民を対象として開校している「カレッジリンク」、子どもを地域全体で育てるアートプロジェクトとして発足した「ピノキオプロジェクト」、地域の住民・市民が植物を育てる「かし＊はなプロジェクト」など様々な育成活動を行っている。子どもから高齢者までが参加できるプログラムが用意されている。

■　プロモーション

上記の内容以外にも地域のプロモーションとして多くのイベントが開催されている。「ふるさと田中みこし祭り」などの地域のお祭りや、柏の葉の体操「葉っぱっぱ体操」の考案・イベント実施、「サイクルフェスタ」や「里さくら祭り」などテーマに則したイベントの実施などを行った。

■　情報発信

2009年からは地域情報紙「柏の葉スタイルNews」を月刊発行し、まちづくりの動向を市民に直接伝え、さらに広報活動の団体間連携を強化するために東京大学オープンキャンパスと連動した企画や、春の行楽シーズンにおける地域一体となったイベントの企画などを実施し、多くの人にUDCKや柏の葉の活動を伝えてきた。また、各報道機関によって紹介されるケースも増えてきたと言える。

UDCKから発行している出版物も毎年継続して発行されている。UDCKの年間報告をはじめ、柏の葉キャンパスタウン構想、学生の都市環境デザインスタジオ、各活動の報告などである。

表2-11　2009年度までの活動表

年度	月	構想／組織	月	空間計画／研究	月	実証実験／活動	月	情報発信
2005年	8月	TX開通	3月	駅前147・148街区提案型コンペ、事業者決定				
	9月	TX沿線産業・都市シンポジウム						
2006年	年間	国際キャンパス構想基礎調査	10月	駅前147・148街区アーバンデザイン委員会開始	11月	夜間照明アート	11月	センター設立
	6月	東京大学教授がUDCK設置提言	11月	駅前150街区大型商業施設開業				第１次パンフレット発行
	10月	UDCK設立	9月～	都市環境デザインスタジオ（1年目）				
2007年	年間	国際キャンパス構想策定調査	4月～	都市環境デザインスタジオ（2年目）	2月～	五感の学校	11月	第２次パンフレット発行
	4月	専任副センター長とディレクター着任	7月～	環境空間計画の基礎研究	4月～	ケミレスタウンプロジェクト	11月	開設1周年パーティ
	10月	専任ディレクター１名増員	9月～	カレッジリンクシニア住宅	4月～	柏の葉八重桜並木設置協議会設立		
	3月	国際キャンパスタウン構想策定	10月	柏の葉まちづくり研究会	４月	月間イベント		
			10月～	小さな公共空間の試作	5月～	ガラスの花ワークショップ		
			3月	駅前151街区超高層住宅入居開始	5月～	まちづくりスクール		
					5月～	地域活性化プラットフォーム事業		
					6月～	小さな公共空間の実践		
					6月～	みちのプロジェクト		
					6月～	遊びの学校		
					6月～	予防医学プロジェクト		
					8月	ふるさと田中みこしまつり		
					8月～	サイクルフェスタ		
					10月～	まちづくりスクール		
2008年	年間	国際キャンパスタウン構想 第１次フォローアップ	年間	区画整理2次デザイン	4月～	柏の葉エコデザインツアー	6月	2007年度年報発行
	5月	国際キャンパス構想公表	年間	小さな公共空間の運用	4月	柏の葉キャンパスフェスタ	11月	第3次パンフレット発行
	8月	柏の葉フューチャービレッジ開設	4月	地域大学連携部会	4月	健康フェア	11月	開設2周年パーティ
	10月	協力団体とディレクター増員 （イベント、広報、市民活動）	5月～	建築環境デザインスタジオ	4月	柏の葉里さくら祭り開催		
	年間	国際キャンパス構想 第２次フォローアップ	8月	駅前147街区超高層住宅着工	6月～	柏の葉キャンパス駅前クリーン作戦		
			9月～	都市環境デザインスタジオ	9月	ふるさと田中みこしまつり		
			11月～	柏版CASBEE研究	10月～	まちづくりスクール		
			11月	自転車部会、柏の葉モビリティフォーラム	10月	まちのクラブ活動発足		
			2月	地域教育部会、UDCK教育フォーラム	11月～	柏の葉はちみつプロジェクト		
			3月	戸建て住宅等小規模建築における環境建築 UDCK環境フォーラム	12月～	千葉大学カレッジリンク・プログラム		
						五感の学校		
						マルシェコロール		
						ピクニックエクスポ		
						はっぱっぱ体操		
2009			年間	区画整理2次デザイン	年間	まちのクラブ活動	6月	2008年度年報発行
			年間	小さな公共空間の運用	4月～	位置情報基盤を活用したユビキタス モビリティシステム	11月	開設3周年パーティ
			5月～	建築環境デザインスタジオ	4月	柏の葉里桜まつり		
			6月	ITS実証実験モデル都市・柏	5月～	まちづくりスクール		
			9月～	都市環境デザインスタジオ	5月	ピクニック月間		
			9月	アーバンデザインセンター会議	5月	サイクルフェスタ		
			10月	駅前147・148街区アーバンデザイン委員会完了	6月～	千葉大学カレッジリンク・プログラム	2月	
			10月～	環境コンビニステーション試作	10月	ケミレスタウンプロジェクト		
			11月	柏の葉モビリティドーラム	10月～	まちづくりスクール		
			11月～	柏の葉モビリティ・ラボ	10月～	かしはなプロジェクト		
			3月	コミュニティフォーラム	11月～	千葉大学カレッジリンク・プログラム		
						まちのコト		
						駅前出張サイエンスカフェ		

（出典：年間報告2007～2009）

2.3.4　創設期から現在までの時間的変遷

創設から4年間の時間の流れを図2-36に示す。創設期、指導期に関しては砂川（2008）の研究、また2009年までの3年間について前田（2010）の研究で、その概要が示されている。

これらを参照すると、その関係主体の多さや活動の広がりを知ることができる。

砂川は設立者である北沢の研究室の学生として、また前田は専任スタッフとして常にUDCKという組織の中に入ってその実態を報告している。また、設立当初と現在を比較すると、協力団体や関係者も増え、活動が複雑化している。従って、これまでの運営体制や活動についての現況を把握するために、以下の２点に着目し、関係者にヒアリング調査を行った。（表2-12、2-13）

2-12　UDCK関係者ヒアリング概要

調査目的	設立から現在までのUDCKの流れを把握すること、4年間の活動の成果や今後の課題について整理すること
調査対象	以下２点に着目した関係者 ①設立時から現在までの時間軸を網羅すること ②構成団体各社と協力団体の一部、住民など「公・民・学」の立場を網羅すること ※ただし、柏市商工会議所に関してはヒアリング調査を断られたため、記述なし。
対象数	13立場　15人
調査方法	ヒアリング調査
調査期間	2010年5月22日～11月26日　（計14回）

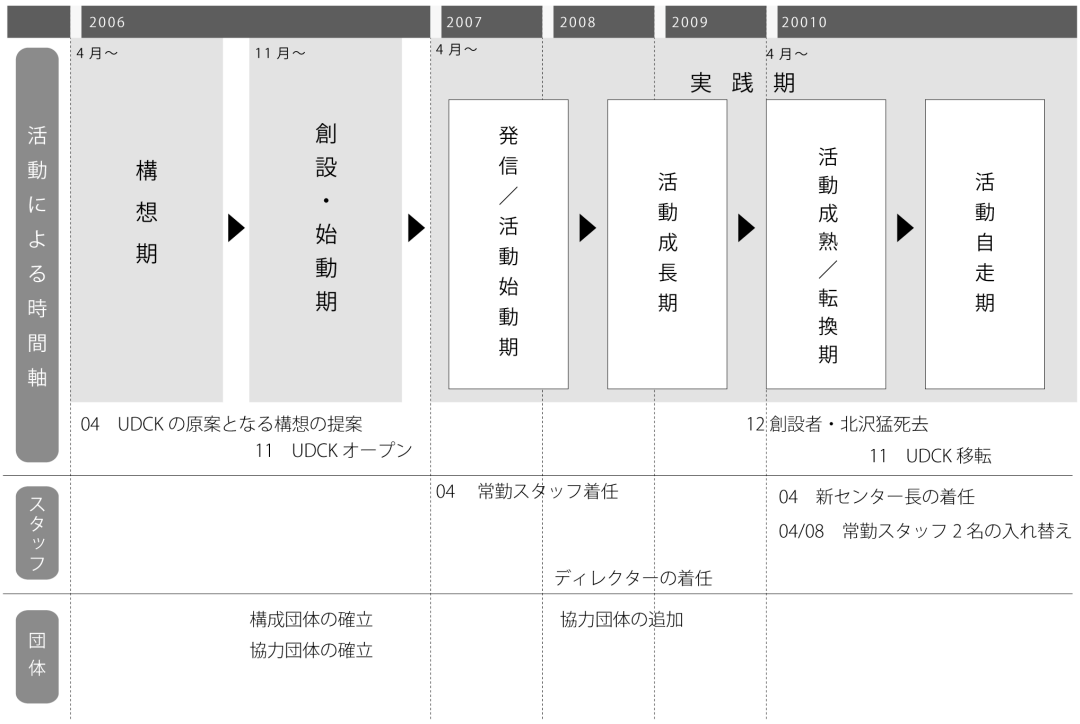


図2-36　UDCKの活動における実践プロセス

創設から現在までの関係者の動きを整理する。図2-37は図2-38の説明である。赤のマークは新しく入った人の動きと、入れ替えの場合を示している。創設期の2006・2007年から2008年度の間には協力団体の関与が増え、さらに選任者の増加が見られる。2008年から2009年度の変化はほとんどない。2009年度から2010年度は、2009年12月の創設者北沢猛の死去もあり、さらに常駐者の入れ替わりが特徴的となった。

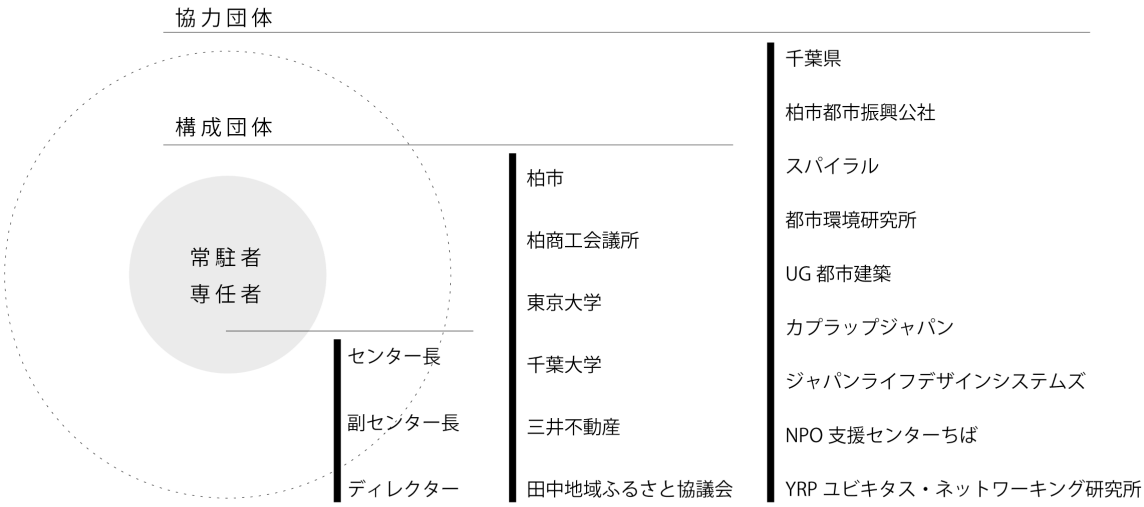


図2-37　運営関係図概要

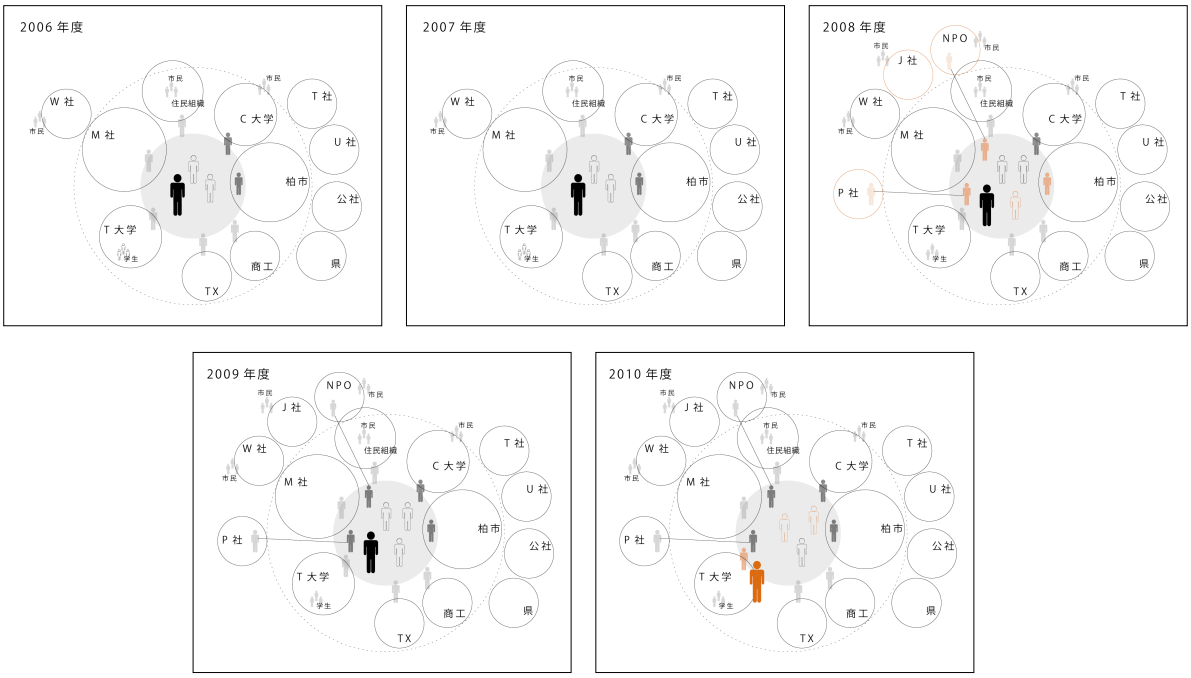


図2-38　運営関係者図

（出典：前田英寿『アーバンデザインセンターの経験的考察』日本建築学会計画系論文集（2010）を編集）

※着色アイコンは人の新任、入れ替えを示す

※名称はスペースの関係上省略　T大学：東京大学、C大学：千葉大学、M社：三井不動産、住民組織：田中地域ふるさと協議会、P社：プラップジャパン、W社：スパイラル、J社：ジャパンライフ、T社：都市環境研究所、U社：UG都市建築）

表2-13　運営側ヒアリング対象者リスト

ヒアリング no※	3	5	6・16	7	8	9
名前	寺嶋進	宮奈由貴子	丹羽由佳里	砂川亜利沙	中田聖司	上野武
性別	男性	女性	女性	女性	男性	男性
年齢	60代	30代	30代	20代	50代	50代
調査日	9/22 11時〜13時	5/22 15時〜16時半	6/23 10時半〜12時	6/21 15時〜16時半	7/5 11時〜12時	7/8 10時〜11時
調査場所	寺嶋さん自宅	旧UDCK	麻布十番 カフェ	PLS	旧UDCK	旧UDCK
質問者	福角朋香	福角朋香	福角朋香	福角朋香	福角朋香	三牧浩也※1 福角朋香
現在の立場	UDCK構成団体 田中ふるさと協議会会長	UDCK協力団体 UDCKディレクター NPO支援センター千葉	UDCKアドバイザー	UDCKディレクター 専任スタッフ	UDCK構成団体　M社 柏の葉担当	UDCK構成団体 千葉大学教授
関係時の立場	UDCK構成団体 田中ふるさと協議会会長	UDCK協力団体 UDCKディレクター NPO支援センター千葉	UDCKディレクター 専任スタッフ	学生 （東京大学空間計画研究室）	UDCK構成団体　M社 柏の葉担当	UDCK構成団体 千葉大学教授
関わった期間	2006年11月〜現在	2008〜現在	2007年4月〜2010年3月	・2006/4〜2009/3 ・2010/8〜	2008年4月〜現在	2006/11〜現在
主な担当業務	・ふるさと田中みこし まつり補助	・まちのクラブ活動 ・マルシェ・コロール	・まちづくりスクール	―	―	・カレッジリンク ・ケミレスタウンプロジェクト

	10	9	12	13	14	15	16
名前	日高仁	信時正人	石黒博	①岩崎克康 ②斉藤智之	前田英寿	石井慶範	田口博之
性別	男性	男性	男性	①40代 ②40代	男性	男性	男性
年齢	40代	50代	60代	7/23 11時〜12時	40代	40代	40代
調査日	7/9 10時〜10時半	7/21 16時半〜18時	7/23 11時〜12時	柏市役所	7/29 13時〜14時	11/17 14時〜15時	11/26 11時半〜12時半
調査場所	旧UDCK	東京大学 工学部11号館 ラウンジ	柏市役所	三牧浩也 福角朋香	芝浦工業大学 前田研究室	首都圏都市鉄道本社	新UDCK
質問者	福角朋香	福角朋香	三牧浩也 福角朋香	①柏市都市計画課 ②柏市行政課	福角朋香	福角朋香	福角朋香
現在の立場	東京大学特任助教	柏市役所	柏市	①柏市都市計画課 ②柏市	UDCKアドバイザー	柏の葉キャンパス駅担当（UDCK担当）	UDCKディレクター
関係時の立場	東京大学特任助教	東京大学特任教授	柏市副市長	―	UDCK副センター長 専任スタッフ	柏の葉キャンパス駅担当（UDCK担当）	UDCKディレクター
関わった期間	2006年6月〜現在	2006年11月〜	―	―	2007/1〜2009/3	現在	2008年8月〜現在
主な担当業務	・旧UDCK設計 ・都市デザインスタジオ	―	―	―	・キャンパスタウン構想 ・PLSプロジェクト ・UDC研究	・サイクルフェスタ	・キャンパスタウン構想 ・農あるまちづくり

※ヒアリングnoは1章P6・7による

左ページの表2-13にヒアリング対象者とその概要を整理した。

関係者によるヒアリングのよって明らかとなった創設から現在までの流れを整理する。全体のまとめとして別紙3を参照するが、さらに質問項目別に分析する。

【UDCKの構成団体／協力団体になるきっかけ】

ヒアリング対象となった団体が、構成団体・協力団体加入のきっかけについて表2-14に示す。

表2-14　UDCK構成団体・協力団体になるきっかけ

団体名	きっかけ
東京大学	• 2006年4月柏市の事業「地域の知の再生事業」に北沢・信時でUDCKを提案。
千葉大学	• 千葉大学／大学内におけるキャンパス計画の見直しと、柏の葉の開発が同時期に進み、 キャンパス内だけではなく、周辺地域との連携を考え、UDCKの動きを受けて、加入
三井不動産	•元々三井不動産の土地だったが、開発の予定はなかった →東大（小宮山元総長）の柏の葉におけるまちづくりの動きを見て影響を受ける •不動産業界としてまちづくりに関わることに挑戦 •行政、大学と連携することの重要性 •副社長、柏市市長、北沢が東大都市工出身でスムーズに話が進んだ
柏市	•大学と地域が連携するためのきっかけづくりとして『大学コンソーシアム柏』ができたこと。 •柏の葉キャンパス駅前を地域の拠点としようという動きがあって、千葉県と北沢先生が話を持ちかけた
首都圏新都市鉄道	• 運営会議にオブザーバーとして顔を出していたことがきっかけで、誘われた
田中地域ふるさと協議会	• 新しいまちづくりと周辺の住民を繋げる役として創設者北沢から頼まれた
柏市商工会議所	• ヒアリングのお断り
スパイラル／ワコールジャパン（株）	• 地域の交流事業の一環としての三井不動産レジデンシャルからの委託事業
NPO支援センターちば	• 地域の交流事業の一環としての三井不動産レジデンシャルからの委託事業

※（ヒアリング実施団体のみ）

【UDCKの存在について】

UDCKという組織について「多くの人が関われる場」であったこと、「フラットな連携の場」であったことによって組織の中ではできないことがUDCKで実現することができたという意見を多く聞くことができた。また、キャンパスタウン構想という一つの目標をつくることができたことは、多主体が連携してまちづくりを行う際の一つの指針となり、その意義を感じている人が多いことがわかった。

また組織だけでなく、活動できる「場所」があったことそのものについて良かったと感じている人が多い。さらに建物が独立して平屋だったことも活動の幅が広がったことに影響していた。

活動については、実践の中で研究ができること、「様々なテーマで取り組むことができること」、「UDCKという場所があったから活動ができたこと」に対してその貴重さを実感した意見が多く挙がった。その他課題として、実践的なデザインを進めることや制度を変えていける活動を行っていくことに取り組むべきとの意見が聞かれた。

全体としては、UDCKという新しい役割・空間を持った施設ができたことに対しての評価が高い結果となった。（表2-15）

表2-15　UDCKについての意見

分類	内容
UDCKという組織	•直接会議の場で行政や企業に発言できる場、フラットな場があることが良い •多くの人が関わることができる •組織の中だとリスクを恐れてできないことも、UDCKでは多くの主体それぞれに任せていることでできることが多い •キャンパスタウン構想という大きい構想をみんなで共有していることがとても良い •キャンパスタウン構想で同じ目標に向かって取り組めたこと •様々な主体が集まることができたのは、これまでにはできなかったこと •日本で最初のアーバンデザインセンターとして組織をつくれたこと •色んな組織がフラットに連携していることで、お互いができること、できないことを議論し、協力できることがあった。活動の成果が目に見えたからこそ、さらに多くの連携に繋がった
UDCKという場所	•UDCKやKFVという場所があったからできたことは多い •何かしたいことがあれば、実現できる場所 •色んな人が使える「場所」があることは良い •何か活動をするといったときに「場所」があることがとても良かった •会議を会議室で行うのではなく、実際の現場を見ながらUDCKでできたことが良い •平屋だったことが良かった •地域課題を快活する場所
UDCKが行ってきた活動	•実践の中から研究することができる •環境、健康、交流など様々なテーマを謳っているし、正解はわからないからたくさん試してみることが良いこと •UDCKがあったからカレッジリンクができた •Kサロンがあったことで、色んな人と良い関係で付き合いができた •行政が主催して行うと説明会になることが、UDCKだとそうならない
その他	•UDCKは発信：受信が7：3位が良い。 •今後ビジネスモデルとして発展する可能性もある •北沢先生のような実践的な人と仕事できたことが良かった。 •ある程度敷居が高い美術館のような迫力がUDCKには必要
UDCKの課題	•実践的なデザインをもっとやっていくべき •制度からかえていける組織であるはず •まちに対してある一定のコントロールやフィルターをかけることが大切

【これまでの成果】

これまでの成果を表2-16に整理する。組織については、上記のUDCKの存在について、組織そのものに対する成果が明らかとなった。建物の評価としては、日本ではじめての機能を持った建物であり、試行錯誤の上建設されたが、「常設してほしい」といった意見が出てきたことは成果である。また、センター内に模型を展示したことに対する評価が高かった。

活動に関しては、多くの活動を展開してきたこと自体を成果と捉える意見が多く挙がった。活動の中からさらに次の展開を始めたものや、他の活動と連携した動きが見られることも成果であると言える。

また柏版CASBEEをつくれたことは、環境をテーマとしたまちづくりを行う上で、大きな成果である。

役割は、行政に対してまちづくりの提案ができたこと、多主体が共に活動できる場を設けたことなどが挙げられる。このように、UDCKの存在は、アーバンデザインセンターという新しい組織をつくり、多くの実践を通して、発信し続けたことが、行政・大学・企業・市民など様々な立場の人にとって成果と言えるものが見えてきたと言える。

表2-16　これまでの成果

分類	内容
組織について	•地元にある資源と新しいことを組み合わせること→東大・千葉大や地元の企業と連携すること （カレッジリンク、TXアントレプレナパートナーズなど） •振興公社による財源確保ができた •話が持ち上がった時に、興味を持って動ける人材がいた
建物について	•UDCKの設計→これまで日本に前例がないため、必要な機能や諸室も試行錯誤で設計 •地域の模型を設置できたこと→市民とそこで都市について会話をするきっかけができた •常設が良いという意見がでてきたことが成果 •キャンパスタウン構想のための基礎研究調査→「緑園の道」や「学園の道」ができた •柏たなか駅の「環境コンビニステーション」の設計（UDCKから提案）
活動について	•キャンパスタウン構想というみんなが共通で持てる目標を作れたことは成果 •「健康・食・農」をテーマにまちづくりに関わる →カレッジリンク、エコデザイン、八重桜並木協議会、ケミレスタウンプロジェクトなど •千葉大と東大の役割分担ができたこと •カレッジリンクの卒業生がまちづくりスクールのファシリテーターをしたり、養生訓カルタのプロジェクトなど次に繋がる活動が出てきたこと •学生のスタジオを市民に公開して継続したこと→そこから派生したプロジェクトがあること •柏版CASBEEをつくることができたこと •新しい地域でコミュニティがまだない場所→みこし祭りを開催した •公衆電源やデッキなど誰でも入れるしかけやものがあることが良い •目に見える小さな成果がたくさんあったこと •企業のとの連携で田中みこし祭りを開催した（柏の葉にはふるさと協議会がないために、田中地域の人が協力した） •まちづくりスクールの卒業生で、柏駅周辺でもUDCKのようなものをつくりたいと動き始めた人がいる
役割について	•地権者に対する教育（地権者に対するプレゼンなど） •行政に対して『新しいまちはこうあるべきだ』ということを多主体や市民が関わる中で生み出し、発信できた •TXを構成団体に入れること •三井不動産と、まちづくりのパートナーとなるように活動やイベントの場をセッティングした •UDCKが活動をしていることをアピールする、UDCKの名前で助成金を確保する（PLSもその一つ） •キャンパスタウン構想をまとめる、実行体制をつくる •UDC研究を行う •小学校の計画で、プロポーザルができたことは成果
その他	•市民と専門家をつなげる（学生の立場でしかできないことをする） •地域の人にUDCKを伝える存在 •個人的には、色んな人の融合を図ってきた。営業。UDCKのファンをつくってきた •直接企業の上役や行政のトップと話ができたことで、小さな失敗を恐れずに実践できた •地元（柏）出身ということで、北部と駅前を繋ぐ役割もできた •実験に参加する人や、住民の協力が必要な時にUDCKに紹介し、繋げてきた。

【今後の課題】

今後の課題（表2-17）としては、組織の体制やしくみづくりに対する意見が多く挙がった。これまでに発信してきた活動を今後どのように維持していくか、その担い手となる市民・住民の巻き込み方について、そのしくみづくりを整えていく必要性、市民・住民が主体的にまちづくりを行うことができるサポート体制を整えることに対する意見を聞くことができた。また、UDCKの常駐スタッフに対する固定の要望や行政から常駐社員を派遣すること等が求められていることがわかった。

また、具体的なハードのプロジェクトを進めること等の都市や建築の分野に対する関与をもっと積極的に行ない、柏の葉の新しいモデルとなるようなものを進めることが求められていることがわかった。

さらに活動については父親世代や高齢者世代を対象としたイベントが少ないことなどの課題が挙げられ、柏の葉地域だけでなく、周辺地域との連携について、その必要性が挙がっており、活動対象者の枠を広げていくことが課題として挙がった。

役割としては、UDCKが捉えるべき領域を明確にするべきという意見が多かった。特に市民・住民にとってどのように利用してよいがわからないことで、地域における役割が曖昧になる。このような地域住民に対する配慮が求められる一方で、柏の葉地域のまちづくりが他地域と比較してどのような特徴があるかといった外部に向けた意見も挙がった。それぞれの領域で捉えた場合のUDCKの役割は様々であり、今後は「できることとできないこと」を明確にしていく必要性が出てきた。

広報活動は、地域情報紙の発行などをはじめてはいるものの、認知度が低いことに対する意見が多く聞かれたことから、情報発信の方法には課題があることがわかった。

表2-17　今後の課題

分類	内容
組織、しくみについて	•発信だけでなく、受信するしくみが必要 •全国や世界に発信することと、地域で継続していくことの両立が必要 •住民や学生が計画の段階から関わることができるしくみづくり •柏の葉の周辺住民との交流、関係づくり •住民が主体的に活動できるしくみが必要 •運営側に回れる市民を見つけること •UDCKは空関計画と市民活動が同時に行われていることに特徴がある。KFVのように、独立してしまうことは今後検討する必要がある。 •まちの状態に合わせて、それぞれの組織が話し合うことが大切 •ニュータウンの限界を見つめ直し、既存の周辺市街地、旧住民との連携 •千葉大の先生がもっとUDCKの運営会議に参加すべき •運営会議が連絡会議になっている→本質的な議論ができる場であり続けるべき •構想の一つとしてTX沿線の計画を調整する機能を持つことがあったができていない→都市計画法自体に問題（駅前は商業しかできないほど地価が高い） •常勤スタッフを固定化すべき •様々に出た意見を消化して一つの方向へもっていく役割がある •財政的な自立に向けた取り組みが必要 •市の職員を一人常駐させてほしいと北沢先生に言われたが、できていない •地元の企業や若い会議所の人も入って、役割を担うこと •今後の運営に向けて、財政的な自立や組織の維持は •市民活動も前田・丹羽で解決することが多かったが、今後はもっと活動後のフォローも踏まえて宮奈さんや専門家に任せることも大切 •展示空間としての機能がまだ十分にできていない。常勤スタッフとして、アートのキュレーターが必要 •地域と連携していくしくみを考えていくべき •広報活動をもっと範囲を広げて行う •UDCKで出会った関係からできた建物や空間などがまだない→UDCKの建て替えなども、もっとできることがあったが、まだ金銭的な自立ができていないことによってできない部分が多い •柏の葉地域に住民組織がつくられるべき •住民組織ができれば、田中、西原、柏の葉が連携できる場所になると良い

分類	内容
ハードのまちづくり、建物について	•オフィスが創造以上に面積を必要 •具体的なハードのプロジェクトを進めるその体制をつくる（オープンコンペなど） •実際の利用者が建築としてどうあるべきかを伝えていくべき •土地利用を変更したり、都市計画上新しい取り組みをしていくこと •プロポーザルの審査を公開にするとか、その評価プロセスやデザインレビューなどをもっと開いていくべき •空間をつくるときに、計画の段階から市民を巻き込んでいくことが課題（タウンミーティングや言葉だけの市民参加ではいけない）→どのような市民を巻き込んでいくかを戦略的に考えることも重要
活動について	•父親世代の活動が少ない、まだ拾えていない世代がある •これまでに実践してきた多くの活動を横に繋ぐこと •柏田中（隣の駅）との連携（話に上がっても実践できていない） •東大で行っているIT技術の連携 •市の職員の研修の場として使いたい •キャンパスタウン構想をもとに、まちづくりを引っ張っていくべき。何か開発や建物を建てるときにはUDCKを介して行う •UDCKで行っている活動と連携して行いたいものがある（自転車の活動など）
役割について	•UDCKが担える部分とそうでない部分を明確に示していくべき •柏の葉エリアだけじゃなくて、もっと広い地域で考えていくことが必要 •情報発信の方法をまだ工夫すべき（周辺地域にもUDCKをしらない人はたくさんいる） •専門家のコントロール（空間の質を保つ、地域の方向性を誘導するなど） •地域の都市の情報が全て集まる場所であるべき •トータルな視点で捉える必要がある •今後は行政がUDCKのような組織を担い、さらには振興公社をまちづくりの研究所のようにしたい •市の中でUDCKの位置づけをしっかり行う •他の地域と比較して柏の葉のまちづくりがどういう特徴があるかを示していくべき •エリアで閉じるのではなく、常に東京や他の地域とも関係を持っているような地域になれば良いのではないか •これからはマネジメントをしていくことが課題 •専門性をもって色々なことを仕掛けていくことが重要
その他	•マンション建設の動きと合わせて、関与の仕方は変る •市内でも公民学連携のセンターを広めていきたい

【4年間の変化】

当初は専門家にとってのための場所だったものが、徐々に地域に対して開かれた存在となり、活動が活発化してきたこと、ハードのまちづくりは時間がかかるので、まだ変化は見え難いが、それに比較して成果が見え易いことが挙げられた。また当初は都市計画や建築に対する新たな取り組みを想定されていたことがわかった。

UDCKという多主体協働で行うまちづくりを通して、まちづくりに対する考え方が変わったという意見も見られた。（表2-18）

表2-18　UDCKの4年間の変化

分類	内容
組織、しくみについて	•構想期には、市民というより専門家集団という感じだった •進めていく中で市民の巻き込み方を検討→模型もその一つ •最初の2年は試されている期間 •最近は少しずつ浸透してきた •創設当初は北沢先生からの指示がとても多かったが、徐々に前田・丹羽で判断する体制ができた •宮奈さん、小林さんなど徐々に専門家が入ることで仕事が細分化した
ハードのまちづくり、建物について	•建築は計画してから完成するまでに数年かかるため、まだ変化は見え難い •もっとアーバンプランニングセンターのような、実務のプロジェクトを担うセンターにする構想だった •市民が気軽に立ち寄れる場所にするイメージだった •創設当初は1、2年で撤退予定 •当初は1年か2年の計画だったが、活動が活発化する中で、常設が良いよいう話になってきた
活動について	•最初はプロモーションがメインで注目してもらうことが重要だった。十分できたのではないか。 •まちづくりスクールの最初は、地権者を呼んで参加してもらっていた→興味を持ってもらうのが難しかった •スピードがあって、色んな効果が見えた→小さな効果の積み重ねと、大きな目標があると良いから •活動が活発化した •Kサロンの重要性が高かった
役割について	•キャンパスタウン構想としてみんなが共有するものを作ったことは成果で、これからは実行する段階。個々の展開を結びつけていく時期。 •捉えるエリアが変化している（TX沿線についての議論はあまりされなくなった）
その他	•UDCKを通じて、まちづくりに対する価値観に変化があった。（開発だけがまちづくりではなく、ソフト面も大切） •担当者のレベルで意識の変化がある •人がたくさん関わる仕事が楽しくなった

2.3.4　まとめ

UDCK関係者に対するヒアリング調査によりわかったことを整理する。

- UDCKという新しい組織体・場所をつくった意味は大きく、UDCKがあったからこそできたことは多い。
- キャンパスタウン構想という一つの目標に向かって多主体が関わることができたことは良い。
- 4年間の間に多くの実践を行ってきたことが成果である。
- 創設時はハードのまちづくりが中心だった考え方が、4年間の活動を通してソフトのまちづくりが活発化してきたこと、今後はそ連携が求められていること。
- 今後の活動の持続性、担い手を育てることの重要性が挙げられている。
- 今後のUDCKの担う役割について明確に示す必要がある。
- 周辺地域との連携を図り、周辺の人々を巻き込んでいく必要が出てきた。
- 情報発信に対する見直し。

2.4　小結　まちづくりの拠点が担う役割とUDCKの位置づけ

2.1.2でまちづくり拠点におけるアーバンデザインセンターの位置づけと2.2.3における地域におけるアーバンデザインセンターの位置づけ、そして2.3.4でUDCKの4年間の歴史を整理した。この上で、まちづくりの拠点が担う役割とUDCKの位置づけを行う。

2.1.2において、その対象者や対象エリアがなどが不明確な拠点であり、まちの状態に連動していることやハードからソフトまで多岐に渡る専門性を有していることがアーバンデザインセンターの特徴であることがわかった。これは、UDCKが捉える様々な領域の広さを意味している。そのため、これまでのまちづくりの拠点が捉えるべきものとされていた領域からさらに広域的な視点を持つことが必要が出てきた。また、2.2.3において、アーバンデザインセンターは地縁コミュニティとテーマ（志縁）コミュニティの両者の重なりを見直し、繋げる存在となる可能性を持っていることが明らかとなった。

これによって、UDCKが捉える領域は実にフレキシブルであり、捉えきれないほど多岐に渡っているため、その役割は常に個々のケースに応じて対応できるような柔軟性が求められることがわかった。

2.3.4によるこれまでのUDCKの整理においても、創設当初に比較してその活動範囲は広がっていることが明らかである。また多主体が生み出す取り組みが多様化することで、運営側にとってだけでなく、住民や市民にとってアーバンデザインセンターの捉え方が複雑化することが推測できる。従って、多主体が関わっていることで多くの活動が生まれるが、これらの広がりを今後どのようにマネジメントしていくかが大きな課題であると言える。

別紙2　UDCK活動表

分類	活動	開催年度					活動場所	主催	協力・実働	対象者	1回の参加人数（約：人）	UDCKの役割			
		2006	2007	2008	2009	2010						常駐スタッフの企画・主導	常駐スタッフの参加・協力	構成団体・協力団体の企画・協力	場所の提供
空間計画	柏の葉国際キャンパスタウン構想	○ 策定検討	○ 2008/3策定	○ フォローアップ	○ フォローアップ	○ フォローアップ	柏の葉エリア全域	千葉県、柏市、東京大学、千葉大学	三井不動産、UR都市機構、都市環境研究所、UDCKスタッフ	―	―	●			● 会議
	柏の葉キャンパス駅149街区まちづくり方針	― 市主催地権者勉強会	○	―	―	―	柏の葉149街区			―	―	●			● 会議
	柏市北部中央地区まちづくり推進方策	―	○	―	―	―	柏市北部中央地区	千葉県	UDCKスタッフ	―	―	●			
	三郷地区センターゾーン都市デザインプラン	○	○	―	―	―	三郷市 三郷地区センターゾーン	三郷市	市まちづくり推進課、企画調整課、庁内有志、住民希望者、専門家、UDCKスタッフ	―	―		●		
	千葉大学キャンパスマスタープランと地域連携	○	○	―	―	―	千葉大学柏の葉キャンパス	千葉大学	千葉大学	―	―			●	
	柏市環境まちづくりガイドラインの検討 CASBEE柏	―	○	○ 環境建築部会 2009/3/25環境フォーラム	― 市内部検討	○ 7/17未来の住まいフォーラム	柏市	柏市	柏市 UDCKスタッフ	―	―		●		
	緑園の道と緑園のまちづくり 駅北側住区のデザイン検討	―	―	○	○	○	柏市北部中央地区	空間デザイン部会	千葉県、柏市、三井不動産、都市環境研究所、UDCKスタッフ	―	―	●			
	柏たなか農あるまちづくり	―	―	○	○	○	柏市北部東地区	農あるまちづくり実行委員会	ＵＲ、柏市、ＪＡ、千葉大学、UDCKスタッフほか	―	―		●		
	柏駅南口地区事業検討	―	―	○	―	―	柏駅南口地区			―	―		●		
	UDCT　福島県田村市まちづくり	―	○	○ 2008/8UDCT設立	○	○	田村市	UDCT	田村市、東京大学、地元住民ほか	―	―		●		
	UDCKo　郡山アーバンデザインセンター	―	―	○ 2008/11UDCKo設立	○ コンペ	○	郡山市	UDCKo	東京大学、ラボット	―	―		●		
研究	都市デザインスタジオ	後期	前期	後期	後期	後期	UDCK	東京大学	東京大学、千葉大学、東京理科大学、筑波大学	東京大学、千葉大学、東京理科大学、筑波大学の大学院生	30人程度		●		●
	建築環境デザインスタジオ	―	後期	前期	前期	前期	UDCK	東京大学	東京大学	東京大学大学院生	30人程度			●	●
	柏の葉まちづくり研究会	―	10/17、12/7	―	―	―	UDCK	UDCK	各分野の専門家	―					●
	環境空間計画の基礎研究	―	7月～10月	―	―	―	UDCK	東京大学空間計画研究室	東京大学空間計画研究室	―	10人程度				● 会議
	地域教育部会	―	―	○ 2009/2/9教育フォーラム	○	○	UDCK	地域教育部会	柏市、UDCK、三井不動産ほか	―	10人程度		●		● 会議
	自転車部会	―	―	○				自転車部会							
	UDCK環境フォーラム	―	―	3/25	2/9		UDCK	環境部会		規定なし					
	UDCK教育フォーラム	―	―	△	2/9			地域教育部会		規定なし					
	柏の葉モビリティーフォーラム	―	―	11/08	11/20		UDCK	自転車部会		規定なし					
	地域大学連携部会							地域大学連携部会							
	UDC研究会、UDC会議	― 世界のアーバンデザインセンター展	―	2009年1月～	通年 9/7UDC会議	通年	UDCK、東大本郷	UDC研究会	東京大学ほか有志研究者	―	―	●			● 会議
	柏の葉コミュニティグリッド	―	―	―	10月～ 2010/3/23コミュニティフォーラム	―	UDCK、東京大学	柏の葉イノベーション・デザイン研究機構	東京大学、柏市、UDCK	―	―	●			● 会議
	ITS実証実験モデル都市・柏	―	―	―	2009/6/5モデル都市指定 2010/2/9協議会設立	通年	柏市、東京大学、UDCKほか	柏ITS推進協議会	柏市、東京大学	―	―		●		● 会議
実証実験	ケミレスタウンプロジェクト	―	4月～	通年	通年	通年	千葉大学	千葉大学	千葉大学	―	―			●	
	ベロタクシー	―	10月～12月	11/20モビリティフォーラムで運行	―	―	柏の葉周辺	UDCK	UG都市建築	市民	―			●	●
	みちのプロジェクト	―	4月～	2008/4/20キャンパスフェスタ	―	―	UDCK、千葉大学	都市デザインスタジオ履修生	東京大学、千葉大学、東京理科大学、麗澤大学の学生、地元住民、柏の葉高校、美しい地域づくりの会	市民、学生	キャンパスフェスタは150人		●		● 会議、WS
	ガラスの花ワークショップ	―	9月、10月	―	―		UDCK、千葉大学	都市デザインスタジオ履修生		市民、学生					
	柏の葉エコ・デザインツアー	―	―	4月～6月 毎土曜日、計6回	― セグウェイツアー実施（下記）	6/19～7/17 毎土曜日、計4回	東京大学、千葉大学、ららぽーと柏の葉、柏の葉公園	UDCK	JLDS	市民	定員20人			●	●
	小さな公共空間PLS	―	2008/3設置	通年	通年	通年 UDCK移転に伴い8月～10月中断	UDCK敷地内	柏の葉イノベーション・デザイン研究機構	UDCKスタッフ	規定なし	―	●			●
	自転車の共同利用	―	―	― 自転車利用促進検討	春・秋　レンタサイクル相互利用 2/15～3/12　スマートサイクル	2010/4～2011/3 スマートサイクル	柏市北部地域	柏市都市振興公社	柏市都市振興公社、柏市、JLDS	市民	登録は800人程度		●		●
	セグウェイの活用	―	―	11/20試乗会	春・秋　セグウェイツアー	通年 2010/5/29セグウェイクラブ発足	東大、千葉大、柏の葉公園	UDCK	三井不動産、JLDS、クラブメンバー	市民	?			●	● 講習会・体験会他
	まちのクラブ活動	―	―	8月～ （活動による）	通年 （活動による）	通年 （活動による）	UDCK、KFV、ららぽーと等	まちのクラブ活動事務局	NPO支援センターちば、クラブメンバー	市民	全体で900人以上（活動による）			●	●
	柏の葉はちみつプロジェクト	―	―	8月～	通年	通年	KFV	柏の葉はちみつクラブ	千葉大学、クラブメンバー	市民	?			●	
	柏の葉モビリティ・ラボ ・柏の葉サイクル・ツアー ・柏の葉セグウェイ・ツアー	―	―	―	5/29・30・31		UDCK、柏の葉			市民	?				
	位置情報基盤を活用したユビキタスモビリティシステム	―	―	―											
育成	まちづくりスクール	―	5/26～8/4計6回 10/20～11/25計4回	10/11～12/20計6回	6/10～8/1計5回 11/4～12/23計5回	9/15～10/6計4回 ※冬コース予定	UDCK	柏市振興公社	UDCKスタッフ、東大学生、スクール卒業生	市民、学生、行政職員	定員30人	●			●
	あそびの学校、五感の学校	―	6月～ 「UDCK遊びの学校」	通年 「五感の学校」に改称	通年	通年	UDCKほか	三井不動産レジデンシャル、スパイラル他	スパイラル、シンク・コミュニケーションズ他	地域の子ども	30人程度			●	●
	ピノキオプロジェクト	―	10/27～11/4	10/29～11/16	10/11・12	10/10・11	UDCKとその周辺	三井不動産レジデンシャル、スパイラル他	スパイラル、シンク・コミュニケーションズ他	地域の子ども	?			●	●
	千葉大学大学院演習カレッジリンク	―	―	1/10～ パイロットコース	前期・後期	前期・後期	千葉大学環境フィールド科学センター	千葉大学	千葉大学、三井不動産ほか	市民、千葉大学大学院生	定員20人			●	
プロモーション	未来観測	―	11/20～12/25	―	―		UDCK	スパイラル		規定なし	延べた異常者数80万				●
	サマーナイトピクニック	―	8/25・26	―	―		UDCKとその周辺	スパイラル		規定なし	延べた異常者数2500				●
	地域活性化プラットフォーム事業	―	通年				UDCK	千葉県、柏市、スパイラル		市民					●
	柏の葉里さくらまつり	― 4月協議会設置	4/21・22	4/19・20	4/18・19	4/17・18	千葉大学、UDCK、ららぽーと柏の葉	柏の葉八重さくら並木整備協議会	千葉大学、千葉県、柏市	市民	―			●	●
	柏の葉ピクニッククラブ	―	7/7～	通年	通年	通年	柏の葉周辺	柏の葉ピクニッククラブ（都市デザインスタジオ履修生）	クラブメンバー	学生、市民	30人程度			●	
	TXサイクルフェスタ	―	5/19・20	5/17・18	5/16・17	5/15・16	柏の葉周辺	つくばエクスプレス		TX沿線住民				●	
	予防医学プロジェクト	―	6/1～	通年	通年	通年	千葉大学	千葉大学	千葉大学	市民	―			●	
	マルシェコロール	―	―	5/3・4	5月より毎月開催（第3土曜）	毎月開催（第1土曜）	UDCK周辺	マルシェコロール実行委員会	NPO支援センターちば、スパイラル、学生有志	市民（出店者：地域の商店、農家）	3000～4000人			●	●
	ピクニックエキスポ、ピクノポリス柏の葉	―	4月～5月ピクニック月間 5/4ピクニックエキスポ	4月～5月お花見ピクニック月間2008 5/5ピクニックエキスポ	4月～5月お花見ピクニック月間2009 5/3～5/6ピクノポリス柏の葉	4月～5月お花見ピクニック月間	柏の葉周辺	千葉県、柏市、三井不動産レジデンシャルほか	ピクノポリスについてはスパイラル	市民				●	●
	健康フェア	―	―	4/20	―		メイン：ららぽーと柏の葉 その他全５ヶ所	大学コンソーシアム柏 健康づくり分科会		市民	述べ800				
	ふるさと田中みこしまつり	―	8/25・26	9/6	―	9/11	駅前周辺	ふるさと田中みこし祭り実行委員会	田中地域ふるさと協議会、三井不動産ほか	市民				●	●
	柏の葉キャンパス駅前クリーン作戦	―	―	6/11～8/20 隔週水曜	6/10～9/30 隔週水曜	6/30～ 隔週で冬季も実施予定	駅前周辺	UDCK(2010より）	TX、三井不動産、柏市、三井不動産レジデンシャル、千葉県、地元企業、地元住民	―	20人程度	●			● 集合・解散・収納
	はっぱっぱ体操	―	―	○ 11/15完成披露	通年 コンテスト5/3、11/1	通年 コンテスト9/23	柏市北部地域の各地区	はっぱっぱ体操普及実行委員会	スパイラル、三井不動産レジデンシャル	市民				●	● 講習会等
	サイエンスカフェ	―	―	2009/3/1	10/31	10/30	UDCK、ららぽーと柏の葉	NPO法人サイエンスステーション（2009まで） ＫＳＥＬ（2010）	NPO法人サイエンスステーション、東京大学学生、UDCKスタッフ	市民（子供）			●		●

分類	空間計画	研究	実証実験	育成	プロモーション
活動	柏の葉国際キャンパスタウン構想	都市デザインスタジオ	ケミレスタウンプロジェクト	まちづくりスクール	未来観測
	柏の葉キャンパス駅149街区まちづくり方針	建築環境デザインスタジオ	ベロタクシー	あそびの学校、五感の学校	サマーナイトピクニック
	柏市北部中央地区まちづくり推進方策	柏の葉まちづくり研究会	みちのプロジェクト	ピノキオプロジェクト	地域活性化プラットフォーム事業
	三郷地区センターゾーン都市デザインプラン	環境空間計画の基礎研究	ガラスの花ワークショップ	千葉大学大学院演習カレッジリンク	柏の葉里さくらまつり
	千葉大学キャンパスマスタープランと地域連携	地域教育部会	柏の葉エコ・デザインツアー		柏の葉ピクニッククラブ
	柏市環境まちづくりガイドラインの検討	自転車部会	小さな公共空間PLS		TXサイクルフェスタ
	緑園の道と緑園のまちづくり駅北側住区のデザイン検討	UDCK環境フォーラム	自転車の共同利用		予防医学プロジェクト
	柏たなか農あるまちづくり	UDCK教育フォーラム	セグウェイの活用		マルシェコロール
	柏駅南口地区事業検討	柏の葉モビリティーフォーラム	まちのクラブ活動		ピクニックエキスポ、ピクノポリス柏の葉
	UDCT　福島県田村市まちづくり	地域大学連携部会	柏の葉はちみつプロジェクト		健康フェア
	UDCKo　郡山アーバンデザインセンター	UDC研究会、UDC会議	柏の葉モビリティ・ラボ・柏の葉サイクル・ツアー		ふるさと田中みこしまつり
			位置情報基盤を活用したユビキタスモビリティシステム		柏の葉キャンパス駅前クリーン作戦
					はっぱっぱ体操
					サイエンスカフェ

2006 2007 2008 2009 2010

04 05 06 07 08 09 10 11 12 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12

組織体制運営

- 大学と地域との連携交流会、北沢氏のまちづくり拠点の提案
- 三井不動産からの提案
- 骨格形成（施設概要、設置目的、活動内容、管理運営体制、オープニング式典）
- UDCK 開設 2 周年記念パーティ（11 月 20 日）
- 新 UDCK オープン（9 月 8 日）
- **UDCK 設立（11 月 20 日）**
- 柏の葉フューチャービレッジ開設

空間計画

- 柏の葉国際キャンパスタウン構想
- 柏の葉国際キャンパスタウン構想策定（3 月）、フォローアップ（4 月～）
- 柏の葉キャンパス駅 149 街区まちづくり方針
- 柏市北部中央地区まちづくり推進方策
- 千葉大学キャンパスマスタープランと地域連携
- 柏市環境まちづくりガイドラインの検討
- ・緑園の道
  ・駅北側住区のデザイン検討
  ・農あるまちづくり
- ・緑園の道
  ・農あるまちづくり

研究

- 戸建て住宅等小規模建築における環境建築、UDCK 環境フォーラム実施（3 月 25 日）
- ITS 実証実験モデル都市・柏（6 月 5 日）
- 環境空間計画の基礎研究
- 地域教育部会、UDCK 教育フォーラム実施（2 月 9 日）
- 柏の葉まちづくり研究会（10 月 17 日、12 月 7 日）
- 自転車部会、柏の葉モビリティフォーラム実施（11 月 20 日）
- 柏の葉コミュニティフォーラム（3 月 23 日）
- 地域大学連携部会
- アーバンデザインセンター会議（第 1 回 9 月 7 日）
- カレッジリンク　シニア住宅
- 建築環境デザインスタジオ
- 建築環境デザインスタジオ
- 都市環境デザインスタジオ
- 都市環境デザインスタジオ
- 都市環境デザインスタジオ

実証実験

- 柏の葉エコ・デザインツアー（毎土曜日計 6 回）
- 位置情報基盤を活用したユビキタスモビリティシステム
- ケミレスタウンプロジェクト
- 柏の葉モビリティフォーラム（11 月 20 日）
- ベロタクシー試験運行
- 柏の葉モビリティ・ラボ
- 柏の葉イノベーション・デザイン研究機構（小さな公共空間の実践）
- みちのプロジェクト
  第 1 回 WS（6 月 17 日）、第 2 回 WS（7 月 13 日）、第 3 回 WS（9 月 24 日）、夜のイベント（10 月 14 日）
  企画運営会議（11 月 10 日、12 月 8 日）
- 柏の葉はちみつプロジェクト
- ガラスの花ワークショップ（準備：5 月から、WS 9 月末～10 月初旬計 3 回）
- ケミレスタウンプロジェクト
  国際シンポジウム（10 月 15 日、16 日）
- 千葉大学　柏の葉カレッジリンク・プログラム
  （12 月 13 日、1 月 7 日、1 月 21 日、2 月 7 日、2 月 21 日、3 月 7 日）
  （6 月 6 日～7 月 18 日、5 月 9 日～7 月 18 日、5 月 16 日～6 月 27 日、9 月 26 日）
  （11 月 7 日～12 月 19 日、11 月 7 日～1 月 23 日、）
- まちづくりスクール
  （5 月 26 日、6 月 9 日、6 月 23 日、7 月 7 日、7 月 21 日）
  （10 月 20 日、10 月 28 日、11 月 10 日、11 月 25 日）
  （10 月 13 日、10 月 18 日、11 月 8 日、11 月 22 日、12 月 6 日、12 月 20 日）
  （5 月 26 日、6 月 9 日、6 月 23 日、7 月 7 日、7 月 21 日）
  （10 月 11 日、10 月 18 日、11 月 8 日、11 月 22 日、12 月 6 日、12 月 20 日）

教育

- かし＊ばなプロジェクト
- 駅前出張サイエンスカフェ
- 遊びの学校
  らくがきワークショップ（2 月 12 日）、匂い探し WS（6 月 17 日）、木の葉パズル WS（8 月 5 日）、CAMP クリケット WS（7 月 6 日、9 月 29 日、30 日）、
  ピノキオタウンデザイン（10 月 27 日）、CAMP デジカみしばい WS（11 月 18 日）、クリスマスアートツリー WS（12 月 22 日）
- 五感の学校
- ピノキオプロジェクト
- 柏の葉エコクラブ発足を機に「まちのクラブ活動」発足
- ピクニッククラブ
- ピノキオクラブ（その後廃止）
- マルシェクラブ（その後廃止）
- クラブハウスオープン

プロモーション

- マルシェコロール（5 月）
- 未来観測（11 月 20 日～12 月 25 日）
- サマーナイトピクニック（○月○日）
- 柏の葉キャンパスフェスタ（4 月 20 日）
- はっぱっぱ体操
- 第 1 回コンテスト（5 月 3 日）
- 第 2 回コンテスト（11 月 1 日）
- 地域活性化プラットフォーム事業
- 健康フェア（4 月 20 日）
- まちのコト
- 柏の葉八重桜並木設置協議会設立（4 月）、柏の葉里桜まつり開催（○月○日）
- 柏の葉里桜まつり開催（4 月 19 日、20 日）
- 柏の葉里桜まつり開催（4 月 18 日、19 日）
- 柏の葉里桜まつり開催
- ピクニック月間
- 柏の葉ピクニッククラブ
- ピクニックエキスポ
- ピクニック月間
- ふるさと田中みこしまつり（8 月 25 日、26 日）
- ふるさと田中みこしまつり（9 月 6 日）
- ピクノポリス柏の葉（5 月 3 日～5 月 6 日）
- ふるさと田中みこしまつり（9 月 11 日）
- サイクルフェスタ
- （5 月 16 日、17 日）
- 予防医学プロジェクト　予防医学センター設立（6 月 1 日）
- 柏の葉キャンパス駅前クリーン作戦（6 月 11 日～8 月 20 日）
- （6 月 10 日～9 月 30 日）

その他

- 大学コンソーシアム柏設立
- フューチャーデザインセンター設立
- TX アントレプレナーパートナーズ設立

別紙3　UDCK関係者ヒアリングまとめ

名前	宮奈由貴子	丹羽由佳里	砂川亜里沙	中田聖司	上野武	日高仁	信時正人
公民学	民	学	学	民	学	学	学
関係	協力団体	構成団体	構成団体	構成団体	構成団体	構成団体	構成団体
所属	NPO支援センターちば	東京大学／柏市振興公社	東京大学 空間計画研究室	三井不動産	千葉大学	東京大学	東京大学
関わったきっかけ （組織）	地域の交流事業の一環としての委託事業	—	—	•三井不動産の土地 •開発の予定はなかった •東大（小宮山元総長）の柏の葉におけるまちづくりの動きを見て影響を受ける •不動産業界としてまちづくりに関わることに挑戦 •行政、大学と連携する •副社長、柏市市長、北沢が東大都市工出身でスムーズに話が進んだ	•千葉大内の動きの中で、環境健康フィールドセンターの設立が契機となり、キャンパス計画の見直しが検討された。 •キャンパス内だけでなく、周辺地域のことも考えた計画が必要という方針で動いていた •UDCKの話が持ち上がり	—	『地域の知の再生事業』に提案。産学連携の具体的なアイデアを出し、産学に官も入って「地域をどうしていくか」をともに考え、議論できるるつぼを作ろうとし、UDCKを提案したこと
関わったときの 関係／立場	UDCKディレクター	UDCKディレクター 常勤スタッフ	空間計画研究室 学生	UDCK担当者	UDCK副センター長	UDCK設計者	
現在の 関係／立場	UDCKディレクター	UDCKアドバイザー	UDCKディレクター 常勤スタッフ	UDCK担当者	UDCK副センター長	UDCKディレクター	なし
関わったきっかけ （個人）		北沢先生から声をかけられた		人事異動 新規開発事業の提案をしていたこともきっかけ	千葉大キャンパス計画の担当だったことがきっかけ		北沢先生と共に構想から立ち上げまで関わった （柏の葉のプロジェクトの取りまとめ）
役割	地域の交流事業の運営	UDCK運営			地域と大学の交流	UDCK計画・設計	UDCKの創設、始動に至る戦略
関わった期間	2008年4月～現在	2007年4月～2010年3月	2007年4月～2008年3月 2010年8月～現在	2008年1月～現在	2006年4月～現在	2006年4月～2007年1月	2006年1月～？
これまでにしてきたこと／成果	•参加の入り口をデザインする •多くの活動を発信する •何かやりたいという声を拾って次に繋げる		•市民と専門家をつなげる（学生の立場でしかできないことをする） •実動部隊として様々な活動の企画・提案・実践（柏の葉マップ作成、周辺住民へのヒアリング、ガラスの花ワークショップの運営など） •都市スタジオの運営 •地域の人にUDCKを伝える存在	•地元にある資源と新しいことを組み合わせること→東大・千葉大や地元の企業と連携することに力を注いだ（カレッジリンク、TXアントレプレナパートナーズなど）	•「健康・食・農」をテーマにまちづくりに関わる →カレッジリンク、エコデザイン、八重桜並木協議会、ケミレスタウンプロジェクトなど •千葉大と東大の役割分担ができたこと •カレッジリンクの卒業生がまちづくりスク―ルのファシリテーターをしたり、養生訓カルタのプロジェクトなど次に繋がる活動が出てきたこと •学生のスタジオを市民に公開して継続したこと→そこから派生したプロジェクトがあること	•UDCKの設計→これまで日本に前例がないため、必要な機能や諸室も試行錯誤で設計	•地域の模型を設置できたこと→市民とそこで都市について会話をするきっかけができた •地権者に対する教育（地権者に対するプレゼンなど） •行政に対して『新しいまちはこうあるべきだ」ということを多主体や市民が関わる中で生み出し、発信できた •個人的には、色んな人の融合を図ってきた。営業。UDCKのファンをつくってきた
今後の課題	•発信だけでなく、受信するしくみが必要 •全国や世界に発信することと、地域で継続していくことの両立が必要 •住民や学生が計画の段階から関わることができるしくみづくり •柏の葉の周辺住民との交流、関係づくり •UDCKが担える部分とそうでない部分を明確に示していくべき •父親世代の活動が少ない、まだ拾えていない世代がある •住民が主体的に活動できるしくみが必要	•柏の葉エリアだけじゃなくて、もっと広い地域で考えていくことが必要	•運営側に回れる市民を見つけること •情報発信の方法をまだ工夫すべき（周辺地域にもUDCKをしらない人はたくさんいる） •UDCKは空関計画と市民活動が同時に行われていることに特徴がある。KFVのように、独立してしまうことは今後検討する必要がある。	•マンション建設の動きと合わせて、関与の仕方は変る •まちの状態に合わせて、それぞれの組織が話し合うことが大切 •ニュータウンの限界を見つめ直し、既存の周辺市街地、旧住民との連携	•これまでに実践してきた多くの活動を横に繋ぐこと •千葉大の先生がもっとUDCKの運営会議に参加すべき •運営会議が連絡会議になっている→本質的な議論ができる場であり続けるべき •柏田中（隣の駅）との連携（話に上がっても実践できていない） •東大で行っているIT技術の連携 •専門家のコントロール（空間の質を保つ、地域の方向性を誘導するなど）	•オフィスが創造以上に面積を必要 •具体的なハードのプロジェクトを進めるその体制をつくる（オープンコンペなど） •柏の葉モデルが広がらない理由は上記の体制づくりができていないことが理由 •北沢先生がなくなって、顔だけのこって実際のクリエイティブな活動ができないことが心配	•地域の都市の情報が全て集まる場所であるべき •構想の一つとしてTX沿線の計画を調整する機能を持つことがあったができていない→都市計画法自体に問題（駅前は商業しかできないほど地価が高い） •トータルな視点で捉える必要がある •常勤スタッフを固定化すべき •様々に出た意見を消化して一つの方向へもっていく役割がある •実際の利用者が建築としてどうあるべきかを伝えていくべき •財政的な自立に向けた取り組みが必要
４年間の変化		•創設当初は北沢先生からの指示がとても多かったが、徐々に前田・丹羽で判断する体制ができた •宮奈さん、小林さんなど徐々に専門家が入ることで仕事が細分化した	•最初の2年は試されている期間 •最近は少しずつ浸透してきた	•創設当初は1、2年で撤退予定 •	•構想期には、市民というより専門家集団という感じだった •進めていく中で市民の巻き込み方を検討→模型もその一つ •市民が気軽に立ち寄れる場所にするイメージだった	•もっとアーバンプランニングセンターのような、実務のプロジェクトを担うセンターにする構想だった	•捉えるエリアが変化している（TX沿線についての議論はあまりされなくなった） •活動が活発化した •Kサロンの重要性が高かった
UDCKについて	•UDCKやKFVという場所があったからできたことは多い •直接会議の場で行政や企業に発言できる場、フラットな場があることが良い	•実践の中から研究することができる	•多くの人が関わることができる •何かしたいことがあれば、実現できる場所 •UDCKは発信：受信が7：3位が良い。 •今後ビジネスモデルとして発展する可能性もある	•環境、健康、交流など様々なテーマを謳っているし、正解はわからないからたくさん試してみることが良いこと •組織の中だとリスクを恐れてできないことも、UDCKでは多くの主体それぞれに任せていることでできることが多い •キャンパスタウン構想という大きい構想をみんなで共有していることがとても良い	•キャンパスタウン構想で同じ目標に向かって取り組めたこと •UDCKがあったからカレッジリンクができた	•実践的なデザインをもっとやっていくべき •制度からかえていける組織であるはず	•様々な主体が集まることができたのは、これまでにはできなかったこと •日本で最初のアーバンデザインセンターとして組織をつくれたこと
地域について	•地域に社会教育施設がない故に、UDCKが担ってきた部分がある •コミュニティエリアの田中地域が大きすぎる		•UDCKの捉えている柏の葉エリアと住民の考えているエリアでは差がある	•柏の葉は、他の地域で言う①売りきり型と②商業／オフィスの事業型の両方を兼ねている。 •大学や企業などの資源がある •都会と田舎が共存する地域			
開発について				•これまでの郊外開発は、都会でできないことができたり、都会にすぐ出れることが大切だったが、柏の葉では地元をちゃんと見つめて			

別紙3　UDCK関係者ヒアリングまとめ

名前	石黒博	岩崎、斉藤	前田英寿	石井慶範	田口雅之	寺嶋佳一
公民学	公	公	学	民	—	公／民
関係	構成団体	構成団体	構成団体	構成団体	—	構成団体
所属	柏市	柏市	東京大学	首都圏新都市鉄道（TX）	—	田中地域ふるさと協議会
関わったきっかけ（組織）	•大学と地域が連携するためのきっかけづくりとして『大学コンソーシアム柏』ができたこと。 •柏の葉キャンパス駅前を地域の拠点としようという動きがあって、千葉県と北沢先生が話を持ちかけた	左に同じ	—	運営会議にオブザーバーとして参加していた時に、北沢先生から声をかけられた 元々は積極的な参加ではなかった	—	北沢先生の働きかけにより、柏市の紹介で説明を受け、加入。
関わったときの関係／立場		副センター長 常勤スタッフ	副センター長 常勤スタッフ	柏の葉キャンパス駅担当者	UDCKディレクター 常勤スタッフ	—
現在の関係／立場	なし	UDCKアドバイザー	UDCKアドバイザー	柏の葉キャンパス駅担当者	UDCKディレクター 常勤スタッフ	—
関わったきっかけ（個人）	当時は柏市企画部長で、市全体の計画と大学の連携を担当していた		博士論文の審査を北沢先生にお願いしたことがきっかけで声をかけられた	持ち回りの担当者	前田さんから誘われた	ふるさと協議会会長
役割					建築の専門家	UDCKと周辺住民をつなぐこと 地域の特徴を反映すること
関わった期間	2006年5月～？	2006年5月～？	2007年4月～2010年3月		2007年10月～現在	2006年～
これまでにしてきたこと／成果	•振興公社による財源確保 •話が持ち上がった時に、興味を持って動ける人材がいた •柏版CASBEE •まちづくりスク―ルの運営→地域のリーダー育成のために何かしてほしいと北沢先生から要望があった •まちづくりスク―ルの卒業生で、柏駅周辺でもUDCKのようなものをつくりたいと動き始めた人がいる	•石黒さんと斉藤さんと岩崎さんがいたからできたこと •新しい地域でコミュニティがまだない場所→みこし祭りを開催した •公衆電源やデッキなど誰でも入れるしかけやものがあることが良い •模型があったことが良い •常設が良いという意見がでてきたことが成果 •CASBB柏版をつくれたこと	•TXを構成団体に入れること •三井不動産と、まちづくりのパートナーとなるように活動やイベントの場をセッティングした •UDCKが活動をしていることをアピールする、UDCKの名前で助成金を確保する（PLSもその一つ） •キャンパスタウン構想をまとめる、実行体制をつくる •UDC研究を行う •目に見える小さな成果がたくさんあったこと •直接企業の上役や行政のトップと話ができたことで、小さな失敗を恐れずに実践できた	•ポスター掲示など広報活動	•キャンパスタウン構想のための基礎研究調査→「緑園の道」や「学園の道」ができた •柏たなか駅の「環境コンビニステーション」の設計（UDCKから提案） •地元（柏）出身ということで、北部と駅前を繋ぐ役割もできた •小学校の計画で、プロポーザルができたことは成果 •キャンパスタウン構想というみんなが共通で持てる目標を作れたことは成果	•実験に参加する人や、住民の協力が必要な時にUDCKに紹介し、繋げてきた。 •企業のとの連携で田中みこし祭りを開催した（柏の葉にはふるさと協議会がないために、田中地域の人が協力した）
今後の課題	•市の職員を一人常駐させてほしいと北沢先生に言われたが、できていない •地元の企業や若い会議所の人も入って、役割を担うこと •市の職員の研修の場として使いたい •今後は行政がUDCKのような組織を担い、さらには振興公社をまちづくりの研究所のようにしたい •市内でも公民学連携のセンターを広めていきたい •市の中でUDCKの位置づけをしっかり行う	•今後の運営に向けて、財政的な自立や組織の維持は •キャンパスタウン構想をもとに、まちづくりを引っ張っていくべき。何か開発や建物を建てるときにはUDCKを介して行う	•土地利用を変更したり、都市計画上新しい取り組みをしていくこと •市民活動も前田・丹羽で解決することが多かったが、今後はもっと活動後のフォローも踏まえて宮奈さんや専門家に任せることも大切 •他の地域と比較して柏の葉のまちづくりがどういう特徴があるかを示していくべき •展示空間としての機能がまだ十分にできていない。常勤スタッフとして、アートのキュレーターが必要 •エリアで閉じるのではなく、常に東京や他の地域とも関係を持っているような地域になれば良いのではないか	•UDCKで行っている活動と連携して行いたいものがある（自転車の活動など） •地域と連携していくしくみを考えていくべき •広報活動をもっと範囲を広げて行う	•UDCKで出会った関係からできた建物や空間などがまだない→UDCKの建て替えなども、もっとできることがあったが、まだ金銭的な自立ができていないことによってできない部分が多い •プロポーザルの審査を公開にするとか、その評価プロセスやデザインレビューなどをもっと開いていくべき •空間をつくるときに、計画の段階から市民を巻き込んでいくことが課題（タウンミーティングや言葉だけの市民参加ではいけない）→どのような市民を巻き込んでいくかを戦略的に考えることも重要 •これからはマネジメントをしていくことが課題 •専門性をもって色々なことを仕掛	•柏の葉地域に住民組織がつくられるべき •住民組織ができれば、田中、西原、柏の葉が連携できる場所になるよ良い
4年間の変化	•まちづくりスク―ルの最初は、地権者を呼んで参加してもらっていた→興味を持ってもらうのが難しかった	•柏市としてこうしたいというものが最初はなかった •当初は1年か2年の計画だったが、活動が活発化する中で、常設が良いよいう話になってきた	•スピードがあって、色んな効果が見えた→小さな効果の積み重ねと、大きな目標があると良いから •人がたくさん関わる仕事が楽しくなった	•担当者のレベルで意識の変化がある	•建築は計画してから完成するまでに数年かかるため、まだ変化は見え難い •最初はプロモーションがメインで注目してもらうことが重要だった。十分できたのではないか。 •キャンパスタウン構想としてみんなが共有するものを作ったことは成果で、これからは実行する段階。個々の展開を結びつけていく	•UDCKを通じて、まちづくりに対する価値観に変化があった。（開発だけがまちづくりではなく、ソフト面も大切）
UDCKについて	•Kサロンがあったことで、色んな人と良い関係で付き合いができた •地域課題を快活する場所 •色んな人が使える「場所」があることは良い	•何か活動をするといったときに「場所」があることがとても良かった •会議を会議室で行うのではなく、実際の現場を見ながらUDCKでできたことが良い •行政が主催して行うと説明会になることが、UDCKだとそうならない •まちに対してある一定のコントロールやフィルターをかけることが大切	•色んな組織がフラットに連携していることで、お互いができること、できないことを議論し、協力できることがあった。活動の成果が目に見えたからこそ、さらに多くの連携に繋がった •平屋だったことが良かった		•北沢先生のような実践的な人と仕事できたことが良かった。 •ある程度敷居が高い美術館のような迫力がUDCKには必要	
地域について	•東大が柏の葉を国際キャンパスにしようという動きがあり、千葉県知事も賛成だった •近隣センターの人的な課題に対し、市の常駐職員がコーディネーターとなれることが大切 •UDCKがふるさと協議会で生じている問題の突破口になると良い		•柏たなかの市民農園やガイドライン作成時には、田中ふるさと協議会（住民組織）との関係がうまくいった。	•柏の葉キャンパス駅の乗車人数の増加率は200％以上であり、規模と比較するととても大きい数値 •問題意識が高く、要望が多い地域	•新しい地域だと、一つのテーマ性を持ってまちづくりをすると、価値観に偏りがでる場合がある	•柏の葉はふるさと協議会も近隣センターもまだないので、田中地域がになってきた。 •全体的に人口増加の多い地域だったため、新しい人を受け入れることに慣れている人が多い地域
開発について			•キャンパスタウン構想の結果が見えてくるのは10年後位 •都市計画がなかなか突破できない→区域が大きいことが要因			